

2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 2 月 4 日作成)

小委員会名	地盤基礎系振動小委員会	主 査 名：護 雅史 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (振動運営委員会)	委員長名：緑川光正 主 査 名：宮本裕司
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2017 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>基礎構造を含む耐震安全性向上と耐震設計合理化・精緻化に向け、有効地震動や建物地震時応答の適切な評価方法の構築を目的として非線形動的相互作用効果等に着眼した調査・研究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初年度：過去の地震観測記録・被害の分析による、相互作用効果の影響を検討するとともに、動的相互作用効果を簡潔に設計に取込む方法の整理をする。 ・ 2年度：一般会員向けのワークショップ、あるいはシンポジウムの開催。非線形SSIに関わるパラメータと建物応答・建物被害の関係等を概観できるチャート作成に向けた解析的、及び実験的検討を開始する。 ・ 3年度：非線形相互作用と建物の地震時応答や被害との関係について検討を進めつつ、1～3年の検討結果を反映した出版物の執筆を行う。 ・ 4年度：基礎の2次設計を念頭に非線形相互作用の耐震設計への導入に向けての方法を検討する。出版物の刊行とこれを用いた講習会を実施する。 	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有(2名選出)	
	主査：護 雅史(名古屋大学) 幹事：新井 洋(国土技術政策総合研究所)、藤森健史(大林組) 委員：飯場正紀(北海道大学)、柏 尚稔(大阪大学)、川島 学(三井住友建設) 木村 匠(清水建設)、酒向裕司(小堀鐸二研究所)、柴田景太(大成建設)、 高橋広人(応用地質)、田村修次(京都大学)、永野正行(東京理科大学) 山本健史(戸田建設)、吉澤睦博(竹中工務店)、吉田洋之(東電設計)	
設置 WG (WG名:目的)		
2014 年度予算	290,000 円	ホームページ公開の有無：有(今年度より開設) 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s45/JibanKisoHP.html

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	1. PD:大地震における地盤-基礎-建物系の応答評価の現状と課題 -兵庫県南部地震から20年を迎えるにあたって(地盤振動小委員会と共同) 参加者数367名 『構造部門(振動)パネルディスカッション資料:同上』
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 大会 PD を地盤振動小委員会との合同で実施した。 2. 出版物の刊行に向けて、その一部であるQ&A集の編集を行った。また、小委員会のHPを開設し、これまでのシンポジウム関連資料を公開した。 3. 各委員の研究成果を通して、過去の地震観測記録・被害の分析から相互作用効果の影響等について整理した。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 他の委員会と協働しながらも、当小委員会の特徴を活かした活動をさらに強化する必要がある。 2. 他の小委員会との棲み分けを明確にする必要がある。 3. 若手研究者の発掘・育成に注力していく必要がある。